

内在性レトロウイルスを介した全能性制御機構の解明

～ウイルスによる宿主ゲノム制御の理解に向けて～



ふりがな

さかした あきひこ

氏名：坂下 陽彦

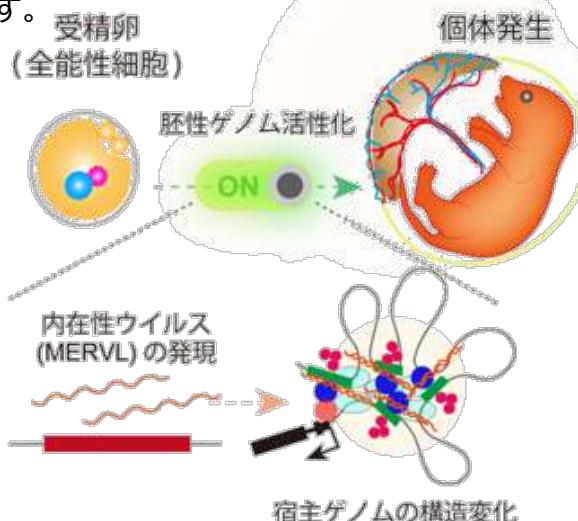
所属・部門：医学部・分子生物学教室

職位：助教

専門分野：発生生物学

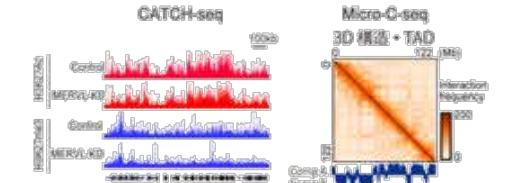
＜研究概要＞

全能性とは、あるひとつの細胞がいかなる細胞種にも分化できる能力を指し、我々ヒトを含む哺乳動物においては、その後個体になる受精卵のみが唯一全能性を発揮できます。しかしながら、その性質や機能を担保する分子機構は、今まで全く明らかにされていません。本課題で私は、生物進化の過程で感染した内在性レトロウイルスによる宿主ゲノム制御という新たな観点から、受精卵特有の全能性制御機構の解明を目指します。

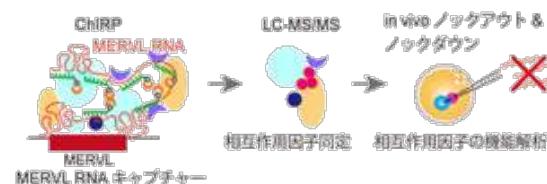


細胞レベルから個体レベルの生物学および
その関連分野/発生生物学関連

①MERVL 転写依存的なエピゲノム修飾 およびゲノム高次構造変化の同定



②MERVL RNA と相互作用する クロマチン複合体構成因子の同定



＜略歴＞

2012年 東京農業大学応用生物科学部卒業、2017年 同大学大学院バイオサイエンス専攻博士後期課程修了、PhD取得

2017年 米国 Cincinnati Children's Hospital Medical Center リサーチフェロー、2020年より慶應義塾大学医学部 助教